

令和6年度(2024年度)花さきデイサービス 事業報告

1.施設の概要

事業の種類	介護保険法に基づく介護予防・日常生活支援総合事業・通所介護事業	
定員	通所介護事業、介護予防・日常生活支援総合事業	合計20名
対象	要支援 要介護と認定された方	

2.職員配置

(1)職種別人員 単位:人

職 種	専 任	兼 任
管理者	0	1
生活相談員	0	2
介護職員	3	1
看護職員	0	4
機能訓練指導員	0	4
調理員	1	0
合計	4	12

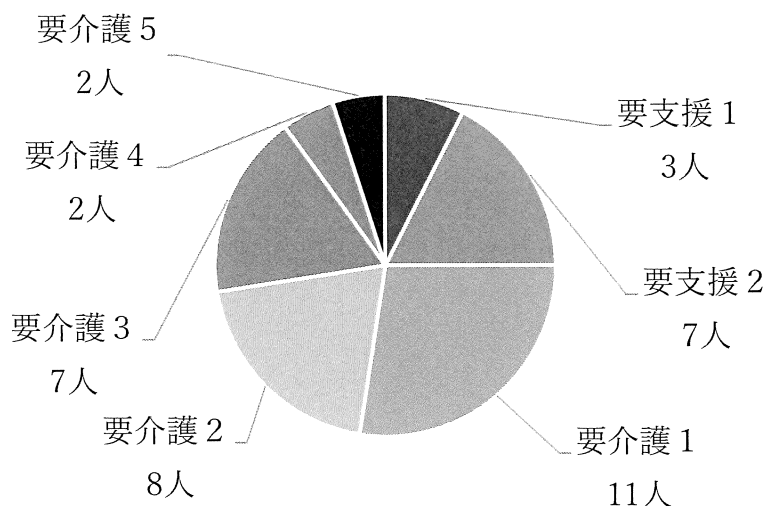
3.一日の流れ

時 間	項 目	内 容
8:00	朝礼迎いの車準備	利用者の確認、順次迎えに出かける
9:00	送迎車到着	順次到着し職員が出迎える
	健康チェック	看護職員が血圧、体温、脈拍を測定しケアカルテに入力する
	朝礼	
10:00	脳トレーニング	計算問題や間違い探しなど脳トレーニングを行う
	入浴	入浴希望者に入浴介助の提供を行う
	個別機能訓練	個々の目的に応じた機能訓練を行う
11:30	歩行練習	テレビ体操終了後 廊下2周の歩行練習を行う
	口腔体操	昼食前に口のマッサージなど口腔体操を行う
12:00	昼食、休憩	
13:15	作品づくり	季節の作品づくりを行う
14:00	集団レクリエーション	担当者がゲームや体操など計画を立て行う
	歩行練習	テレビ体操終了後 廊下2周の歩行練習を行う
15:15	喫茶	コーヒーや紅茶などを飲みながら談笑される
	帰宅準備	トイレや着替えなど帰宅準備を行う
16:00	下肢の体操	かかと上げや足ふみなどを行う
16:15	送りの車出発	各送迎車に送迎を行う

4.要介護度別利用者数

要支援1	3
要支援2	7
要介護1	11
要介護2	8
要介護3	7
要介護4	2
要介護5	2
合 計	40

単位:人



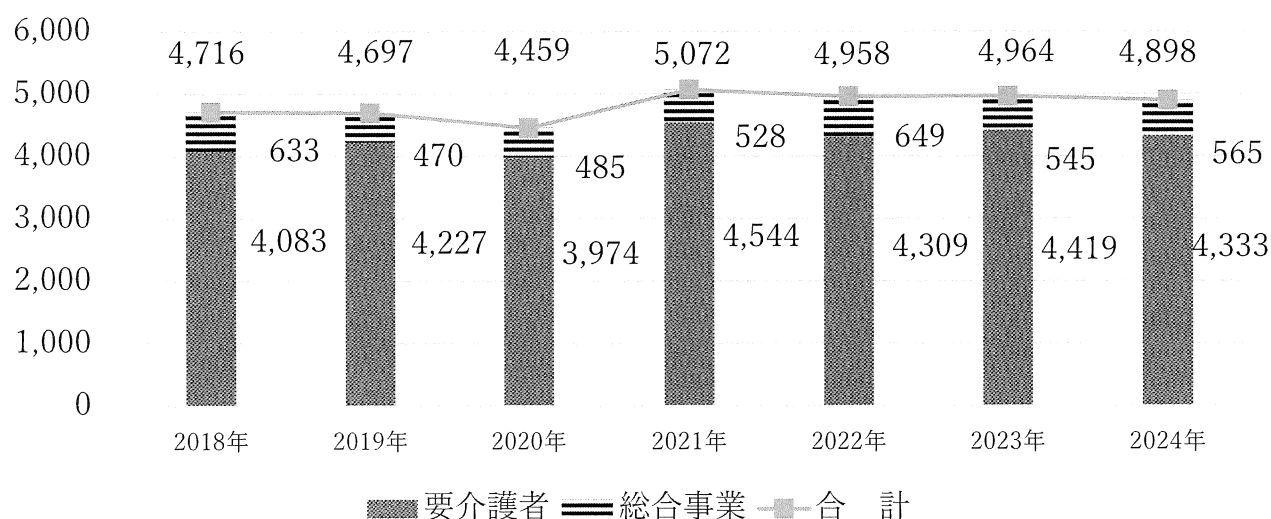
事業実績(花さきデイサービス)

年度別延べ利用人員比較

単位:人

	稼働日	延べ利用者数			1日平均利用		合 計
		要介護者	総合事業	合 計	要介護者	総合事業	
2018年	300	4,083	633	4,716	13.6	218	15.7
2019年	305	4,227	470	4,697	13.9	1.5	15.4
2020年	307	3,974	485	4,459	12.9	1.6	14.5
2021年	304	4,544	528	5,072	14.9	1.7	16.7
2022年	305	4,309	649	4,958	14.1	2.1	16.2
2023年	306	4,419	545	4,964	14.4	1.8	16.2
2024年	308	4,333	565	4,898	14.1	1.8	15.9

年度別延べ利用人員比較

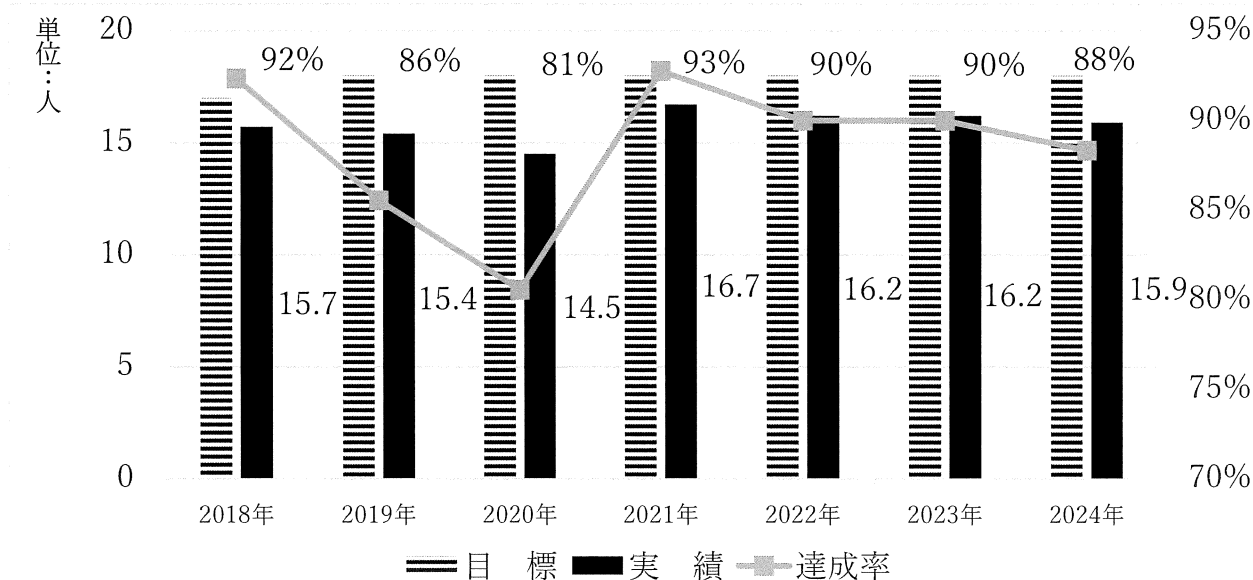


目標と実績比較

1日平均利用者数

単位:人

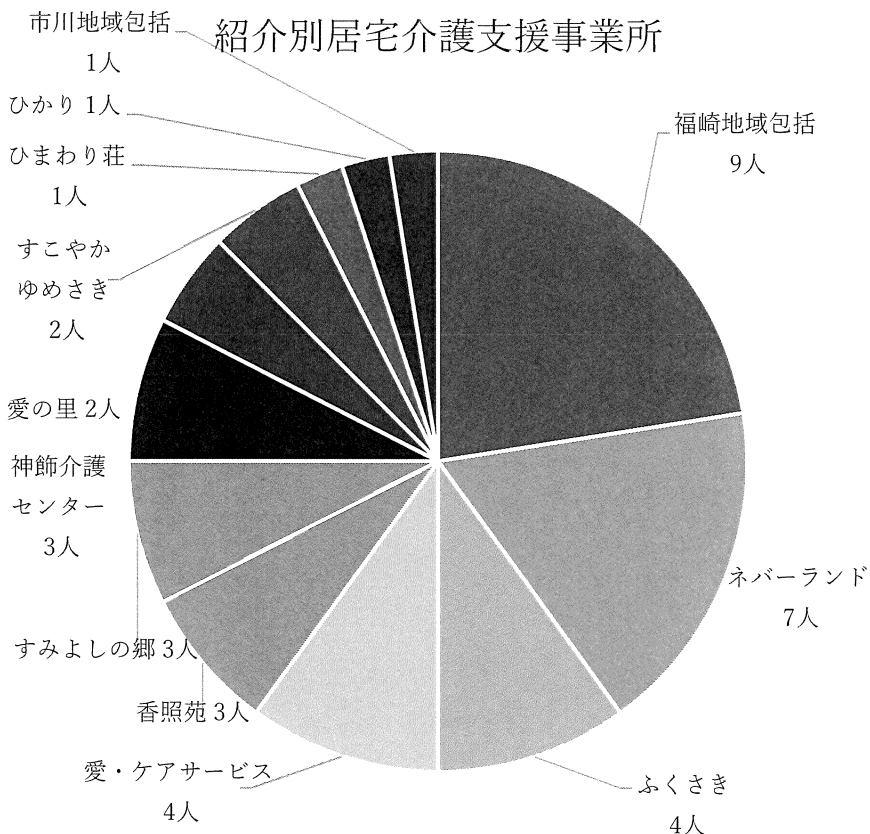
	2018年	2019年	2020年	2021年	2022年	2023年	2024年
目 標	17	18	18	18	18	18	18
実 績	15.7	15.4	14.5	16.7	16.2	16.2	15.9
達成率	90%	86%	81%	93%	90%	90%	88%



紹介居宅介護支援事業所 単位:人

1	福崎町地域包括	9
2	ネバーランド	7
3	ふくさき	4
4	愛・ケアサービス	4
5	香照苑	3
6	すみよしの郷	3
7	神飾介護センター	3
8	愛の里	2
9	すこやか ゆめさき	2
10	ひまわり荘	1
11	ひかり	1
12	市川町地域包括	1

合 計 40



5.目標達成率

平均利用者数/日	目標	結果	達成率
	18 名	15.9 名	88%

(1) 目標達成に至らなかった理由

上半期は、毎月1名の新規利用者の紹介がありサービス利用につながるも、前年度の実績回復まで至らず平均15.9名の利用実績だった。下半期の10月以降安定した利用状況が続いていたが、2月に6名のコロナ陽性者、利用自粛があり平均16.1名の利用実績となった。要因として①新規利用までの空床期間が長かった。②ショートステイとのサービスの併用で休みがあった。③入院期間が長かった。以上の3点が考えられる。

令和6年度新規紹介数は上半期9名、下半期9名 合計18名あった。利用終了者は15名と新規紹介数を上回ったが新規利用までの空床期間が長く目標達成に至らなかった。

また実績向上のために、①居宅介護支援事業所を訪問し空床情報の提供を行う②介護支援専門員に入院中の様子を伺い、サービス継続の見極めを行う。以上の対応を行っていたが目標達成には至らなかった。今後は電話での問い合わせも追加して行うことで情報収集をスピーディーにしていく。

支出に関して、人件費が大半を占めており引き続き ①適正な人員配置で無駄を省く。②人財育成を行い多能工として働く。③開業10年が経過し修理の増加も見込まれるため丁寧に備品を扱い修繕費の抑制を行う。3点を実施し支出の抑制に努める。

(2) 地域との連携

・認知症カフェ「にんかふえ楽笑」が福崎町立図書館で8回開催できた。平均13名の参加者がありミニ講話やカフェタイムを通じて認知症への理解や学びの時間をつくることができた。令和7年度も地域に根付いた社会資源として活動していきたい。

・トライやるウィークの受け入れや新入学生へのロゼッタ作成などで福崎西中学校との連携が行えた。また福崎小学校、福崎東中学校、福崎西中学校の福祉体験会に福崎事業所の職員が参加したことで事業所への親近感を持ってもらえた。

・近隣コンビニエンスストアの協力で利用者が買い物時、レジを専用に開放してもらえた結果焦ることなく買い物ができた。利用者の買い物や品物を選ぶ楽しみにもつながった。

(3) 居宅介護支援事業所との連携

・12か所の居宅介護支援事業所から紹介をうけている。昨年に比べ2事業所減少している。要因として居宅介護支援事業所の閉鎖、新規開拓ができていないことが考えられる。今後は新規事業所の開拓、取引終了事業所の訪問を継続することで顔の見える関係を構築し新規利用者の紹介につなげていきたい。空き情報は随時更新を行い、提供していく。

(4) 職員の資質向上

・法人内の各種委員会をオンライン形式で開催することで、出席することができ事故防止や利用者処遇などの改善につながった。

・職員同士がコミュニケーションを深めることで、情報の共有ができ利用者個々にあったケアが提供できた。

今後は、外部研修の参加を増やし新しい情報、介護技術を学び、広めていきたい。